



# 人とのつながりが 安心な力に

下諏訪地区更生保護女性会  
会長 吉田 美枝子

世の中は、常に変化し続けています。ウイルスとの共存の生活、終わりのない紛争、又、通信機器の発達など不安な中、毎日の日常をすごしています。身近な所に、幸せな時間を感じ、家庭や友達に守られ暮らしをつないでいます。松本にある「更生保護施設みすず寮」の村山 純氏をおむかえして講演会を行いました。犯罪を犯した人達がここで社会復帰の為に準備を重ね、社会人として暮らしていけるように生活指導を行なう施設です。

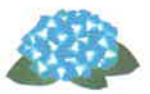


顔の力をいただき、私達も励まされ、がんばっています。令和5年度の出発にあたり

社会に出るとルールを守り人間関係を大切に職場の環境になじむ必要があります。社会で生きていけるよう寮の指導員の皆様は大変な中、がんばっていらつやいます。私達の会は誰もが心豊かに生きられるよう明るい社会づくりを目的に活動しています。

り全国保護司連盟顧問の小林聖仁様を講師におむかえし「更生保護のやりがいと人は生かされて生きてゆく」の講演会を行うことができました。更生保護の会は、やさしい心を育てる会です。この言葉が、とてもうれしかったです。さまざまな人と交流し自分が必要とされる場所をみつけることができました。こんなすばらしいことはありません。人と人とのつながりをめぐるせて行けば、

大勢の人の輪ができ、たくさんの方の犯罪防止の目もでき、それが安心な力に育つていくと思います。安心、安全な町づくりのために、会員一同仲良く元気でがんばって参ります。関係団体の皆様、保護司の皆様、ご指導、ご協力をお願いいたします。



## 第三十三回 長野県更生保護女性集い

第二十三回長野県更生保護女性集いで次の方が表彰されました。

- ◆ 法務大臣感謝状 松尾 則子
- ◆ 長野県保護観察所長感謝状 太田 秀子
- ◆ 長野県更生保護女性連盟会長表彰 中村 愛子
- ◆ 長野県保護司会連合会長感謝状 小口 みさ子
- ◆ 関東地方更生保護委員会委員長感謝状 中村 喜美子
- ◆ 関東地方更生保護女性連盟会長表彰 真野 陽子
- ◆ 吉田 美枝子

## 人事報告

■ 退任保護司 吉澤 達郎 降旗 勇 青木 實  
長い間の更生保護活動に心から敬意を表します。本当にありがとうございました。

## ■ 新任保護司

福田 一裕  
よろしくお願い致します。



## ■ あとがき



お忙しい中、巻頭に防災ネットワークしもすわ会長の高橋敦子様に意義深いご寄稿を頂きありがとうございます。

三年余のコロナ禍の社会から、ポストコロナの社会に変わっていらっしゃいます。その社会はコロナ禍以前とはだいぶ違っていることでしょう。諸先輩方が築いてこられた更生保護活動も社会の変化に対応しながら引き継いでいくこととなります。それには社会全体での取り組みが必要で、この「保護だより」が、その一助になることを願っています。(文責 大木)

## 防災ネットワークしもすわの活動

防災ネットワークしもすわ

会長 高橋 敦子



令和5年 第17号  
諏訪地区保護司会  
下諏訪分区分  
発行者 高山登美子  
編集 広報部会



今年は、どこも桜の開花が大変早く、赤砂先の桜も見事な花を楽しませてくれました。



日頃より、更生保護活動に取り組まれております貴会の皆様へ敬意を表します。

犯罪や非行の過去を改め、明るい明日への希望をはぐくみ日々を歩むことを支援する地道な活動は、強い精神力と包み込むような包容力が必要であると、ご拝察申し上げます。

更生保護活動と防災意識向上の取り組みは、一見共通項を見いだせないように思われますが、共通する理念があります。それは、「だれ一人取り残さない」という目標を掲げていることです。

当会は昨年度から、「個別避難計画作成推進」に取り組んでいます。下諏訪町が個別避難計画作成モデル事業実施団体として全国二十三の自治体のひとつに認定されたからです。

過去の災害において、その犠牲者は、障害のあるかたや、高齢のかたが多数を占めています。もしものとき、避難行動要援護者を地域の力で、逃げ遅れゼロとする取り組みは、簡単にできることではありません。高齢者等避難開始の警報が出たら、誰が、声をかけ、避難のための準備を手伝うのかを一人一人の生活に寄り添ってきめ細やかに事前に決めておくこと。日ごろから隣近所が助け合いのしくみを作っておくこと。丁寧な打ち合わせコミュニケーションこそが、だれ一人取り残さない避難につながります。

この地域力を高める取り組みは、犯罪や非行の芽を早めに摘むことにもつながるのではないのでしょうか? 「だれ一人取り残さない」という理念は更生保護においてもまた、根底にある考え方であると聞きしています。

明るいまちづくり、地域づくりの一助となるべく、ともに力を尽くしましょう。



# 分区長就任のご挨拶

高山 登美子

令和五年度役員改正に伴い、十八年在籍しております諏訪地区保護司会下諏訪分区長の職に就きました。

拝命当時はただひたすら個人情報を守る事が最優先で誰が保護司なのか？保護司はどんな仕事をしているのか？保護司同士でも対象者のことは全く分からない様にしておりました。関わりがない人には知る事の無い職かとおもいます。

現在十名の保護司で活動していますが、近年下諏訪町は保護観察者、環境調整が多くほぼ全員が受け持っているという状況です。また複雑なケースも増え二名の保護司で悪戦苦闘しながらの活動です。

個性を延ばす時代、しかしわがままとの判別が更生の世界では非常に難しく、特別な資格も無い普通のおじさんおばさんが務める保護司ですから大きな期待は望めません。それでも私の経験から、今まで関わりあつた対象者に一つだけ共通して想える事は、ご両親が子育ての時、そ

の子に心して愛をもって接していたら、こんな横道にはそれなかつたのではと思えてなりません。それは初面接の時にあるお母さんから「この子の犯した原因は私にも有ります、私も一緒に更生します」と子育ての最中に家庭事情に問題があつた事に気が掛けていたお母さんの言葉が立ち直りの原点、今でも確信しております。何歳になつてもお母さんの愛が子供には最高の宝です。

子供たちの元気な声が私共の一番の喜び、社会を明るくする運動を通じて、下諏訪町独自の中学生の標語募集や全国規模の作文コンテストで子供たちの発表の場を設け後押しします。

賛助会員のご協力のおかげで成り立っております更生保護活動、更なるご指導ご協力を切にお願ひ申し上げます。小さくてもキラリと光る下諏訪町。安心安全の一助の為に邁進していきます。

# 第七十三回 社会を明るくする運動



「社会を明るくする運動」のシンボルマーク

犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域の手カマ

強調月間 七月一日～七月三十一日

標語

下諏訪両中学校より二十点の入選標語を立看板にし、町内二十箇所に設置し、学校訪問の際、表彰します

街頭啓発 七月三日(月)

駅前と各小・中学校入口で主旨を呼びかけます

小・中・高・養護 六校を訪問し、更生保護女性会より「愛の花束」を贈呈します

学校訪問 七月二十七日(木) 十八時三十分～二十時

公開ケース研究会

下諏訪総合文化センター テーマ「闇バイト、SNS……現況と対策」(仮題)

# 「社会を明るくする運動」作文コンテスト

下諏訪の小中学校の児童・生徒の皆さんから毎年作文を募集し、入選した作文を表彰します。

# 第六十七回 長野更生保護大会報告

今年度も新型コロナウイルス感染症状況に鑑み、規模縮小での開催となり、県知事表彰以上の保護司のみの出席にて開催されました。下諏訪分区の受賞者は次の通りです。おめでとうございます。

- ◎ 法務大臣表彰 降旗 勇
- ◎ 全国保護司連盟理事長表彰 高山 登美子
- ◎ 関東地方更生保護委員会委員長表彰 青木 實
- ◎ 長野保護観察所長表彰 堀内 伸二



# 藍綬褒章を受章して

笠島 信明

この度令和四年秋の褒章で、保護司を拝命以来十九年の更生保護活動の功により藍綬褒章を受章いたしました。

このことは長野保護観察所の先生方、諏訪地区保護司会、又、下諏訪分区保護司のお仲間、町更生保護女性会はじめ更生保護に携わる関係者の皆様のお力添えの賜物と感謝いたしております。犯罪・非行をなした少年や成人の対象者と関わる中で思うことは、世の中に捨てるべ

# 法務大臣表彰を受賞して

降旗 勇



令和四年安曇野市豊科公民館ホールにて、第六十七回長野県更生保護大会が開催され、壇上にて法務大臣表彰を受賞いたしました。思えば、保護司とは何をするかも知らずに入り、対象者に更生道案内をする重責にとまどいながらも「忍耐と熱意」をモットーに十八年継続できました。保護司になった二年目から今年の春ま

# 公開ケース研究会の開催

犯罪予防活動部



2022年10月19日長野日報紙所載

研究会は毎年一回開催してきましたがコロナ禍で三年ぶりの開催となりました。今回は感染症対策のため、分区保護司と町更生保護女性会会員のみの開催とし規模を縮小して行いました。東京都文京区在住の中澤照子元保護司(一)がメインで講師を務め、「犯罪・非行のない街をめざして」をテーマに二十二年間で二百二十人以上の対象者を担当した経験や自身の人生観をお聞きました。保護司を退任して直ぐに、江東区に喫茶店を開き社会貢献活動として、現在地域の人々の居場所づくり尽力しているとのこと。

又、多くの少年少女の対象者に食事として手作りの「カレー」を振る舞い、その後の立ち直りや社会復帰に繋げてきた支援活動が、高く評価され藍綬褒章、又、



瀬戸山賞を受賞されています。講演の中で幾つかエピソードを話されましたが、特に「行きずりの声かけ」のエピソードでは先生自身都内駅や道端で偶々出会った人との交流を話されました。声かけが多くなると、自分自身も困っている人に出会うことになると話され、普通、人は色々なトラブルには近寄りたくないようにするが先生自身は近寄りたく話されました。地域社会において、多くの人が孤独や貧困により孤立化が進む中、先生はそのような人々に手を差し伸べることが大事であると話されました。最後に意見交換を行い保護司活動において具体的な悩み等、今後の支援の在り方などを話し合いました。先生は二年前に動画投稿サイト「ユーチューブ」チャンネルで「華麗なる更生族」を立ちあげています。又、少年少女に振る舞った手作りのカレーは、現在「更生カレー」として法務省や関係者の支援を受けてレトルトカレーとして商品化されました。先生は「更生カレー」を購入する事は更生保護の活動を支援する事と思いいえていただければと話しています。

尚「更生カレー」は、一箱(五個入)三千円です。購入は中澤照子宛 住所・氏名・何箱かを記入の上、FAX東京〇三三三二一〇五一一に申し込んでください。(文責 笠島)